

ゴロミン

ここは、秀○学○高校
バレーボール部顧問のパレス。

たか○きは
親友の志保の様子に異変を感じ
顧問の男を問いただそうと
パレスに侵入するが

顧問の罠にはまり捕まってしまった。

「志保の様子がおかしいの、
あんたのせいでしょうー!」

ギロギン

たか〇きは男を睨みつける。

「おいおい、被害妄想も大概にしるよw」

「志保は俺に惚れてるんだ。」

俺が好きで好きでたまらないんだよ」



男は肩をすくめ、視線を
たか〇きの身体に落とす。

「それにしても……
そのキャットスーツ、
実にいいな。似合ってる」

んお……

「ふざけないで！志保は悩んでた！
全部は話してくれなかつたけど、
きつとアンタのせいよ！」

「ふっ、事実さ。確かに現役の生徒に
手を出すことは良くないけどな、
だがアイツが、言い寄ってきたからだ
お前が知らないだけだ」

んお……

んお……

「……あなた、本当に最低！」

「怒るなよ。寝ているんだ」

「気持ち悪いって言っているの！」

志保を勝手に語って、許せない。

私は絶対にあなたなんかには負けない」

男の笑みがわずかに固まり、空気が張り詰める。

「ふっ、そこまで言うなら、

試してやるうじやねえか」

ズンズン





「や、やめなさい！触らないで！」

「おおつ、すげえデカいなく！
この弾力たまんねえ〜！！」

「放せ、この……っ！
やめて！！」

クニクニ

クニクニ

「ふふっ…そんなカリカリするなよ
俺に胸揉ませとけばいいだけだろ。
減るもんじゃねえしW」

「おお…嫌がってる割には乳首
硬くなってるぞ…W
なんだ…感じてんのかW」

カ
メ
↓

カ
メ
…
↓



「うっ♡ち♡づ♡うっ!!
ん♡く♡う♡ミ♡」

「ははっ、そんな声出してよw
お前も欲求不満なら…
俺と気持ちいい関係になるかw」

「誰がアンタなんか…」
「ん♡づ♡う♡ッ♡♡あ♡う♡う♡ッ♡♡」

ズレ

ズレ

ズレ

ズレ

「ふふっ…、
乳首つまんだだけで
ビクビク震えやがって…
もう…準備万端だな、
さあ、ここからが本番だぞWW」

おぉ〜ん

「はっ…っ…っ…
ほ、本番…!?」



ざん…ん

「じゃっ！早速入れるぞ〜W」

「やめ…っ、やっ…
そんなの入らない!!」

ズキッ

ズキッ

アッ



「おまんこを舐めろー
ぶるぶるするんぞ〜…MMM」

「あ…っ、大きい…っ！
あはっ…っあ…っ！」

フツッ
↓

フツッ
↓

フツッ
↓



「ここまで余裕とはな…W
満足できなかつたら
すまねえな〜WWW」

「あ〜…あ〜…
やめっ…あめっ…
奥まで来てるっ!!!」

「あ〜…あ〜…
「三ツツ…あ〜ん…
（子宮が圧迫されてっ…
なにこれ…ツツ）」



「分かるかって聞いてんだよ！返事はっ!!!」

ドクドク

「あぐらッ!? わっ...
わかる、わかるううううッ!!!
だから、やめ...ええ...ッ!!!」

「何言ってるんだ、
じつなもんで終わるがよ!!!」



ズンズン

ズンズン

「んわらららん!!!
あつ...はああああつ!!」

ダメッ、ダメッ♡!!!
イグツ♡イグイグツツ!!!♡
「♡♡♡ちやうらうらうら♡♡♡」



「おお…潮まで吹きやがってWW
どうだこれが気持ちいいか？ええ？」

「やらっ…！も、限界…！ツッ！！
んおっ!?ふあああアツ！！
これ以上はらめっ♡」

「心配すんな、こんなんでも
壊れる訳ねえからよっW」

「やめでえ〜ツッ！！
オマング壊れるう…
ごわれぢやうう…！！」

「あゝいっ声だ…！その声も…と聞かせるー」



♡
♡
♡

♡
♡
♡

♡
♡
♡

♡
♡
♡



「おおおおツ、おうつ、
あああーツツツ♡!! 激じららら!!
らめえッ! すじいの来るッ♡!
イツグらうらうらうらッ♡♡♡」

「はんぱんぱん」

「はんぱんぱん」

「はんぱんぱん」



「んおー」

「おー」

「おー」

「だけど、ここまで盛大にイクとは
素質ありだなWW」

「……♡くぁ……♡んひ……♡」

「おー」

「よじっ！次はお前のマンコ」
たっぷり俺のチンポを記憶させよう

「おほおっすっげえ締めりー！♡」

「お前のマンコ、
めっちゃ絡みしろんぐわー」

「ああ…♡だめえ…!!
ごんごんの…太すぎる…!!♡」



「どっつ? 俺のチンポは?
気持ちいいだろWW」

「誰が…こんなの…
気持ちいいわけ…」

「なにが…じゃあ
これはどっつだっ!!!」

おっ

ぽんぽん

ぽんぽん

おっ

おっ



「おほおほおおつ♡!!!」

「お前中イキするタイプだろw
こじやつて
子宮ゴリゴリされるのが
好きなんじゃねえかww」
「ほらほらこじやつた?
気持ち良いったる!!!」

「んっ……♡
ううっ……だめえ…
ごんなの…
気持ちいい……♡」
「くっ……おおっ……♡♡」
「だめえ…
チンポに負けじゃうっ♡♡」

「んっ」

「んっ」

「ふあっ！♡おっ、おチンポ…
奥まで…届いてるう…!!♡」

「はあっ！♡
だ、だめ…！…こんな
こんなの気持ちよすぎて…！
頭おかしくなるうう…ツツ！♡」

おっ

おっ

おっ

おっ



「そつだー！
本性をさらけ出せッ！！
たかのき！！
俺のチンポで
掻きまわされるのが
気持ちいいんだろ！！」

「んああつー！！♡だめえ…
これ…たまらない…♡」

「あんっー！！♡もつと…
もつとお突いてっ！！♡」

ズッ

ズッ



「ああっ！♡
そこ…そこっ！
ヤバいいいいッッッ！♡」

おっ

「おおっ！イクッ！
中…射精すぞっ！」

おっ

「んあああッッッ！♡
中に…出してえ…！
ザーメン子宮に…
ちようだい…！♡♡」

おっ

おっ

おっ



「おはようーEENEYー
イクイクイクウウウッ」

フッ

おはよう

フッ

「おはようー♡熱い…!!
精々…さっぱろ…!!
わっわんわん♡」

フッ

「わんわん♡♡♡♡♡」



フッ

フッ

(おほおお…♡
量…すげーいらい♡
子宮…震えるうう…♡♡♡)

「ふう〜結構射精たな〜W」

(こんなのためえ…
こんなの知っちゃつたら…もぉ…♡)

ゴロメツ

ハッ

ハッ



「ちよ…やめ…っ！
こんな所で…何を…」

ムキムキ

ムチュム

ムチュム

ムキムキ

ムキムキ

「授業中に
このトイレを使う奴
なんかいいえよ」



「美味しそうに頬張って、俺のチンポはそんなにうまいかW」

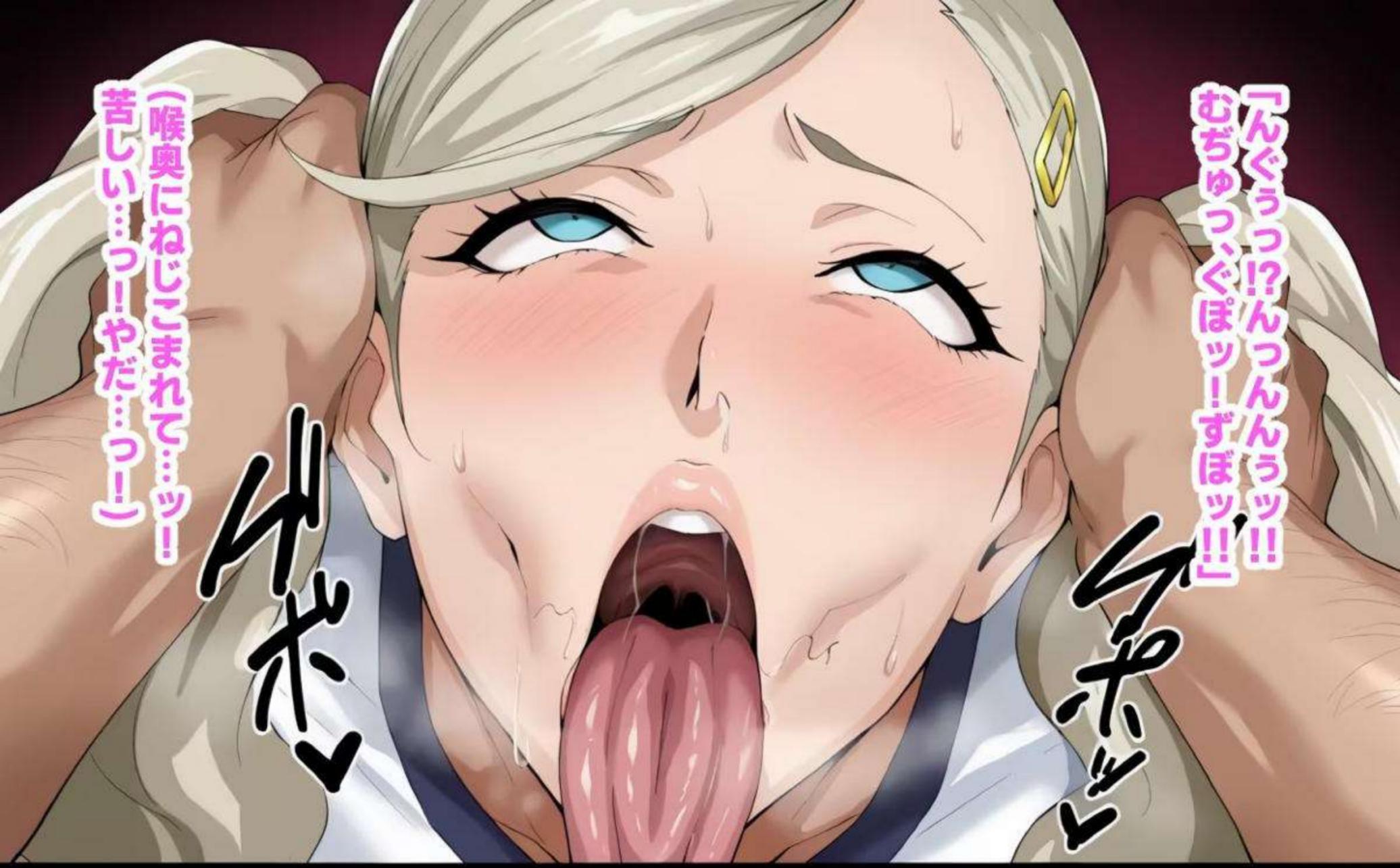
「違うわよ...やっつくと終わらせたいだけ...」
んっ...む...っちゅ...ちゅる...っ」

しゅっ
♡

くっ
♡

んっ
♡

「ふん、だったらもっと舌を使えよ...そんなんじゃないつまで経っても終わらねえぞ！」



「んぐらっ?!んっんらっ!!
むぢゅっぐぽっ!ずぼっ!!」

（喉奥にねじこまれて…っ!
苦しい…っ!やだ…っ!）

グッ
グッ

グッ
グッ



「おらおらせっしゅ吸っしゅ
喉締め奉仕ごらー」

「んおっ!おっ!んぐらっ!
ぢゅぶっぢゅぽおおっ!」

グッ
グッ

グッ
グッ



「んんんっ!んら!んぐっ、んお…っ!」
(息…できない…っ!)
もっっ…早くイッてよ…!!!

んんん



「ぐっ!れるっ、れるれるっ…ぢゅぽっ!」

んんん

ぢゅぽ

「いい舌使いになってきたなあ…だが、まだまだ…ッ!」

んんんんん

「飲み終わったか？口開けてみる…」
「ふあ……っ！はっ……あ……っ！」

はっ
はっ

「よしよし全部飲めたなww」
「はあっ……はあっ……」
「さあっ、そろそろ授業が終わるな…」
「放課後いつもの教室で待ってるよ」



「うやひ…うんぱなうんぱどー…うんぱっ♡」

「おおっ、挿入した瞬間からまんこが
ウネってちんぽに絡みついできやがる！
さては、授業中もチンポ欲しくて
堪んなかったんだろｗｗ」

「い、い、いっ♡んっ、オブツ♡」

「いい加減素直になれよ！
ほら、俺のデカカリで
子宮ロソックしてやるわー」

いっ
いっ
いっ

いっ
いっ
いっ

いっ
いっ
いっ

「オオツ!?♡だ、だめっ♡
そ、そこダメえッ♡んオオツ♡」
「んっ♡おほほおッ♡
や、やめて……っ♡
き、気持ち……ッ♡」

「そっつだるーもっつ♡んー!
気持ちさささっ♡んー!!」

「んオオツ♡♡♡んんなの
んらッ♡♡♡ん♡」

おん

おん

ははっ

ははっ

「オオおツ♡だめツ♡イべツ♡
イツぐよぶツ♡♡♡」

「ラッ！イクイクッ！」

「んオオお〜」

♡♡♡♡♡

Wwwww

ははっ

「ふ〜…
一発目はやっぱり濃いな〜W
おおくたかOきのオマンコ、
痙攣しすぎだろWW」

「はっ♡ほお♡ほっ♡
お、お腹…熱いっ♡」



「んオオおッ♡ほおッ♡
イッイッイッイッ
イッイッイッ」

「ふうく…いやあ〜
お前のスケベな反応、
最高にそそるなWW」

「ほっ♡ほっ♡ほお〜ッ
うづっ…こんなの…
らめえ〜ッ♡」

ドクッ

ドクッ♡

「でも、まだまだ
こんなもんじゃねえぞ…」

「は…へえ…!?」

「さあラストスパークいくぞ!!」

「んっ……もう……
だめよお……♡」

「ダメもクソもねえだろ!

お前は俺専用の

オナホなんだから!

ほらほらほらっ!!」

ドッ

ドッ♡



「オツ♡おおツ♡んオオおツ♡
ほおツ♡やべっ♡イクイクイクミ」

（サーメン子宮の中でグチヨグチヨ
掻きまわされて…
きもちぢぢら〜♡♡）
「オおおツ♡
き、気持ちいい♡
これえきもちぢらららのお♡♡」

アッ

アッ



アッ

アッ

「ははっー本音だなWWW
ほらっお前の淫乱マン」
「三発目ぶち込んでやる！」

「オうおおッ♡ほおッ♡
イぐッ♡イツ♡ぐう♡づう♡づう♡
みみ♡♡みみ♡♡

「おおっーEENのEEM...
たかOの子宮、
子種汁で満タンにしてやるッ!!!

アッ

アッ



その後も俺たちは、
ぶっ続けでセックスしまくった。
たか〇きは少なくとも20回はイき狂って、
マン汁とザーメンでグチャグチャになった！

「おお、たか〇きのポテ腹！
イイ感じにでかくなつたな」

「うたく……アンのせいで
こんなお腹になつて、
乳首まで大きく
なつちやつたじゃない……♡」

「はは、わるいな」
でも、その体めっちゃくちゃ
エロかわいいぜ」



ムムム

ムムム

ムムム

「もぉ...調子のいいことばっか言っで.....♡
でも、今はだめよ...
お腹に子供がいるのから...♡」

「はあ? そんな恰好見せられて
我慢できるわけないだろ」
「ほら、わっさと跨れ!!」
それにお前もまんざらでもねえんだろ」

「もぉ...やわっつべっつんも...」

ゴムン♡



「んっ、んっ、んっ♡♡♡
おおおっ♡♡♡
ちよっ♡♡♡ お腹、気がしてんぞ♡♡♡」

「おおっ、ヌルッヌルだ！
妊娠中のくせに
おまんこグチュグチュじゃねえかWWW」

グチュッ♡

グチュッ♡

グチュッ♡

グチュッ♡



おほおツ♡んづらツ♡
そそんな奥まで……♡
だめツ♡おおおツ♡
気持ちよすぎで……すぐイっちゃう♡「

「お前のヨガリ声めっちゃエロいよW
その発情面も堪んねえなW
ほらほらっ!!その下品な面もっと思わせる!!」

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん



おっ

「オオツ!?♡
だ、だめえツ♡♡そこダメツ♡
「うっほおツ♡♡んオオツ♡♡」

乳首つねられるの
らめええ〜♡♡♡
「頭、おかしくなるツ♡
イ、イっちやうっ♡♡」

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ



「ああ、俺もだ!!、もう我慢できねえ
俺のザーメンたっぷり
ぶちまけてやるからな!
オラオラオラッ!!!」

「おツ♡ほおツ♡おおおツ♡
だめだめツ♡イクツ♡
イクイクイクツ♡」

「オホおほ」

「♡♡♡♡♡」

はき♡

はき♡

はき♡

はき♡

はき♡

はき♡

はき♡



クワン





んっ

んっ

んっ



オレ

女



女

女
ム...



乳

乳首

乳輪

乳首



ゴキョウ

ゴキョウ

ゴキョウ















아아아아

아아아아

아아아아













下着

下着

下着

下着



ドン

ドン

ズン

ズン

ズン

ズン



アッ

アッ

アッ

アッ



クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ





ムキムキ

ムキムキ

ムキムキ

ムキムキ

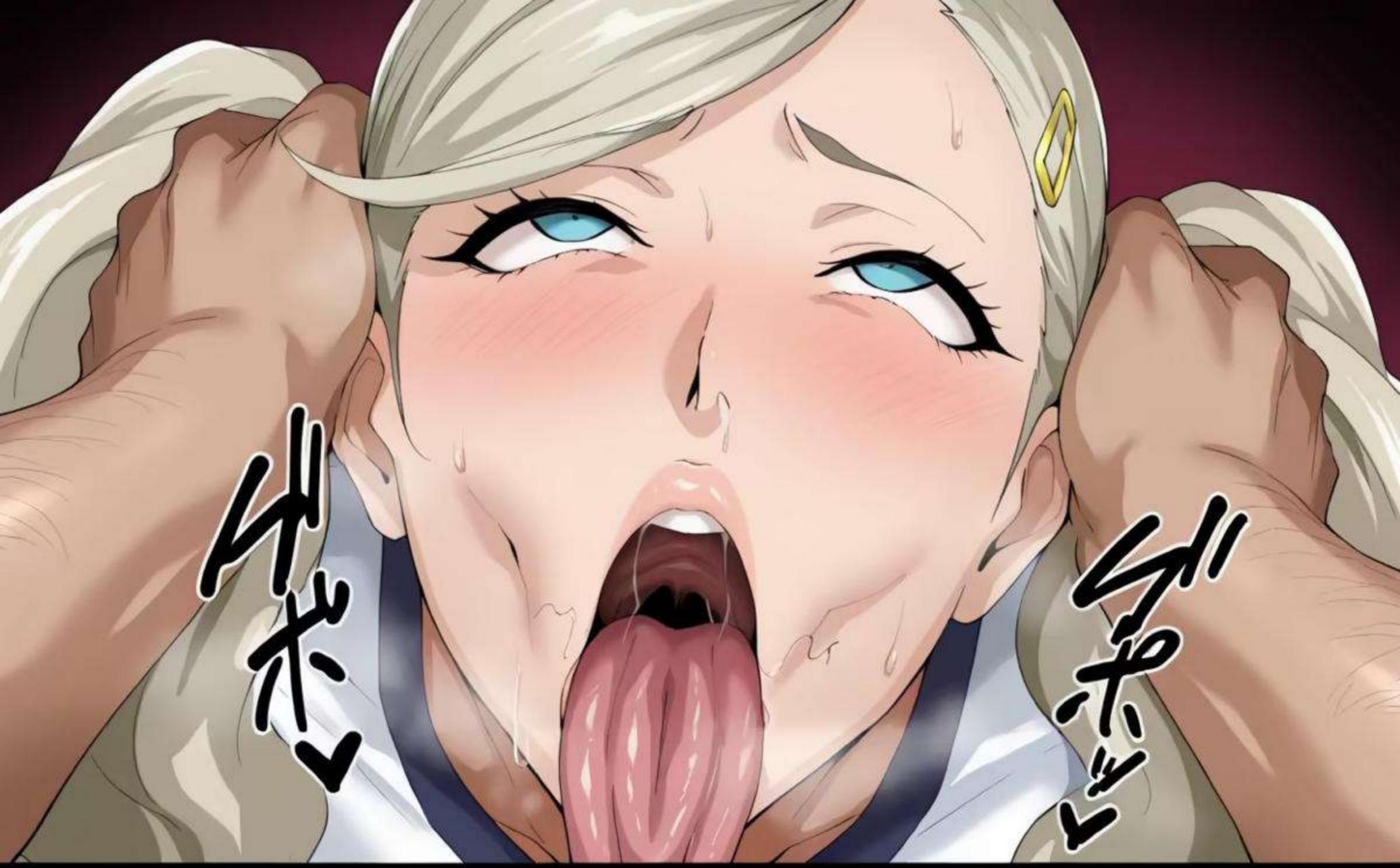
ムキムキ



しゅわん♡
♡

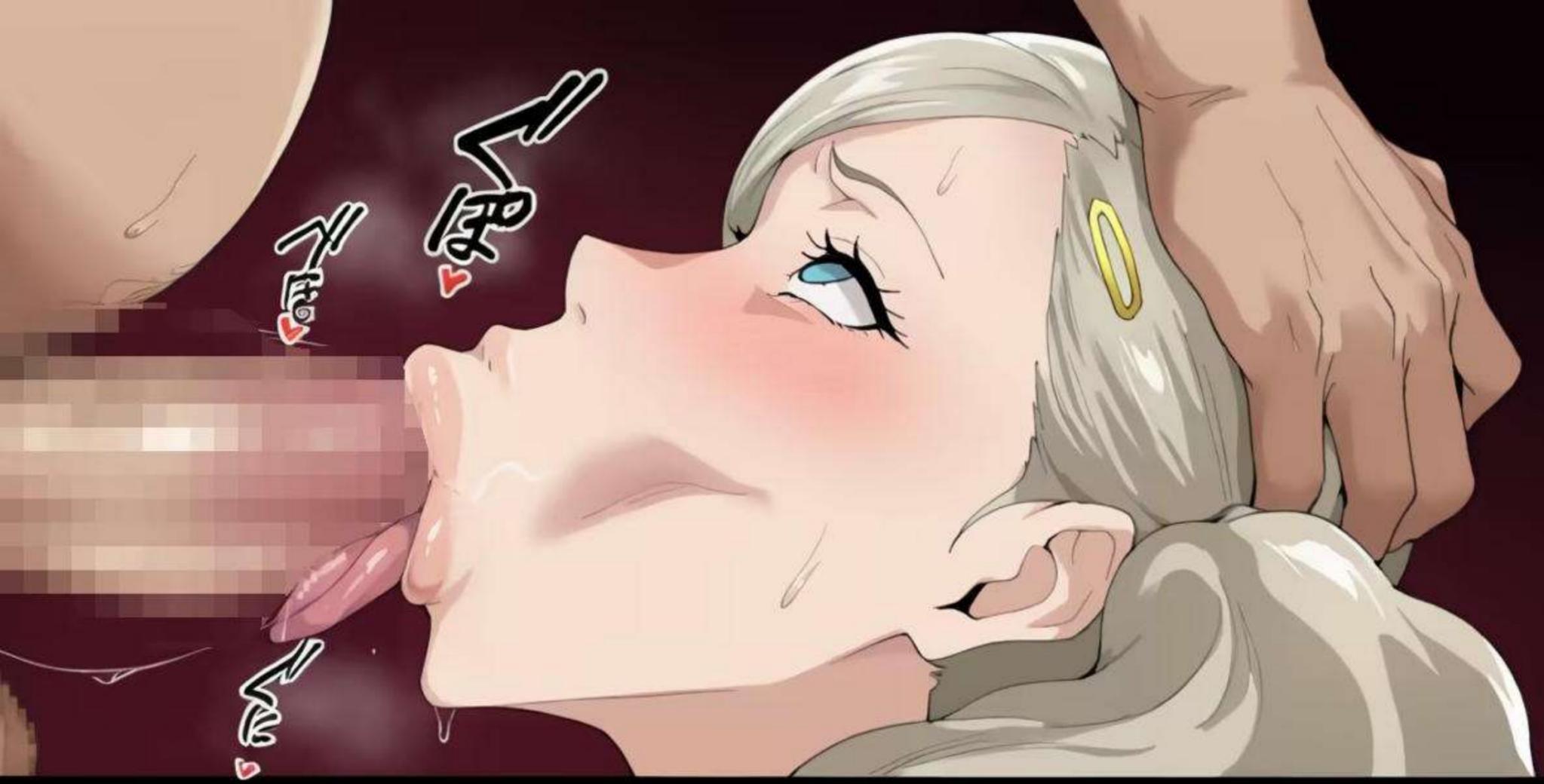
ん♡
♡

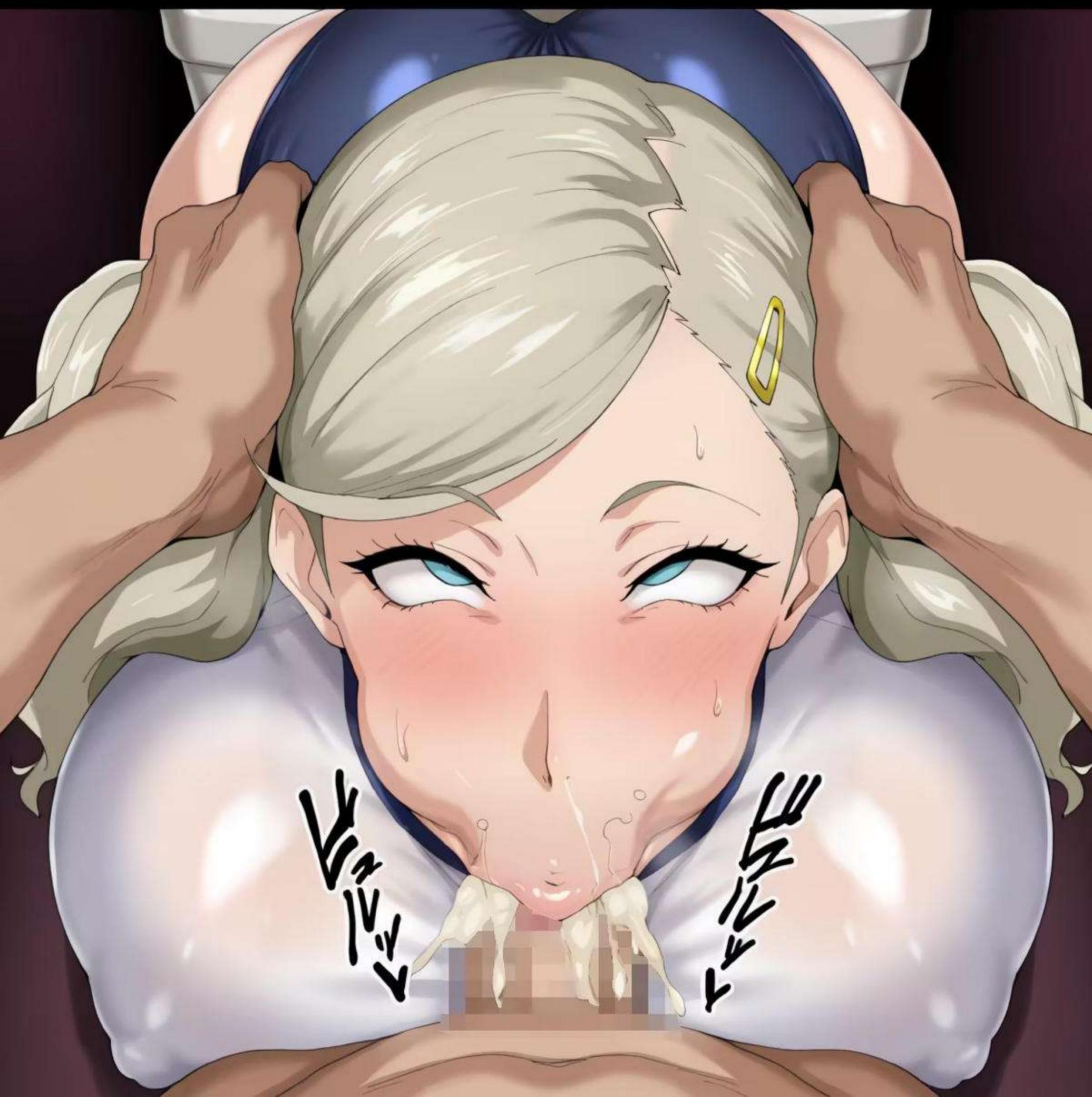
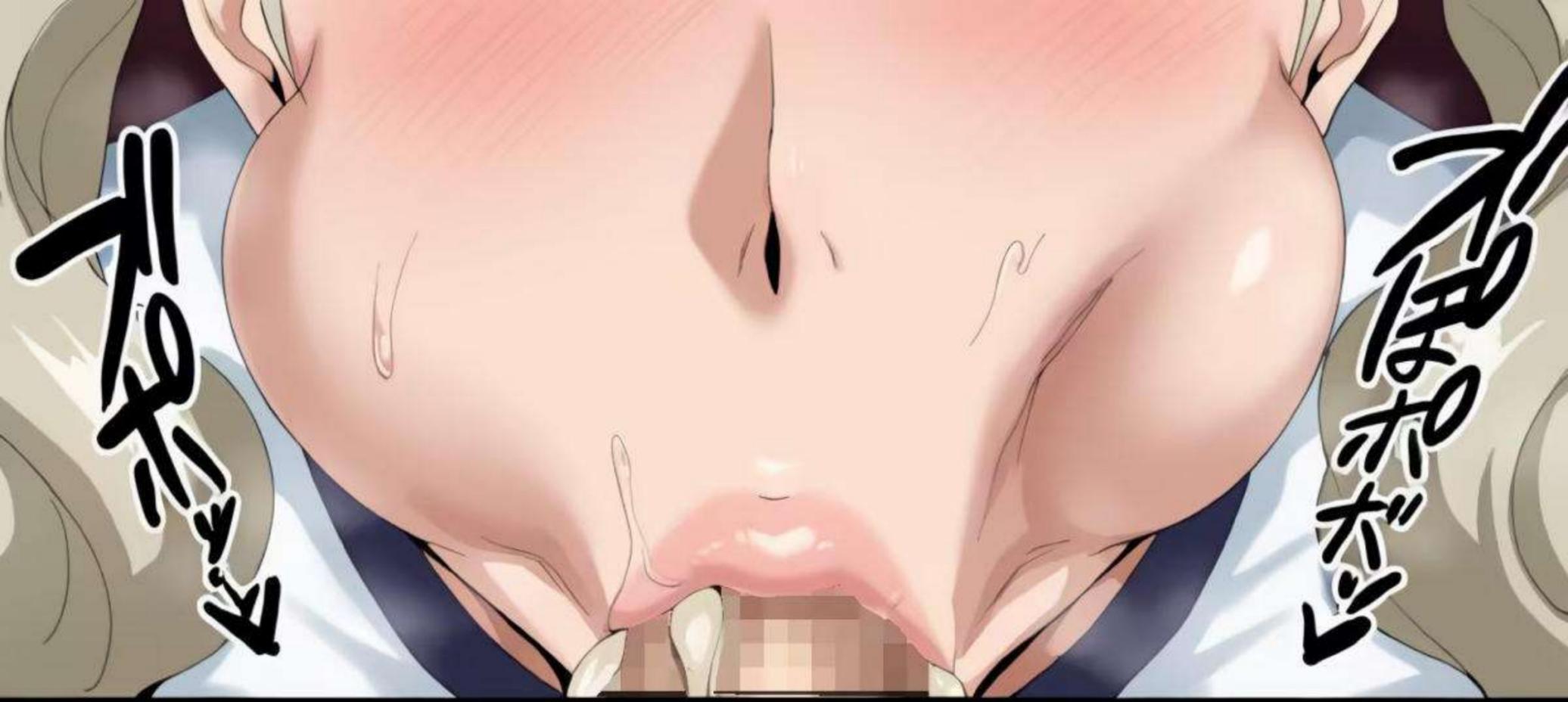
キス♡

































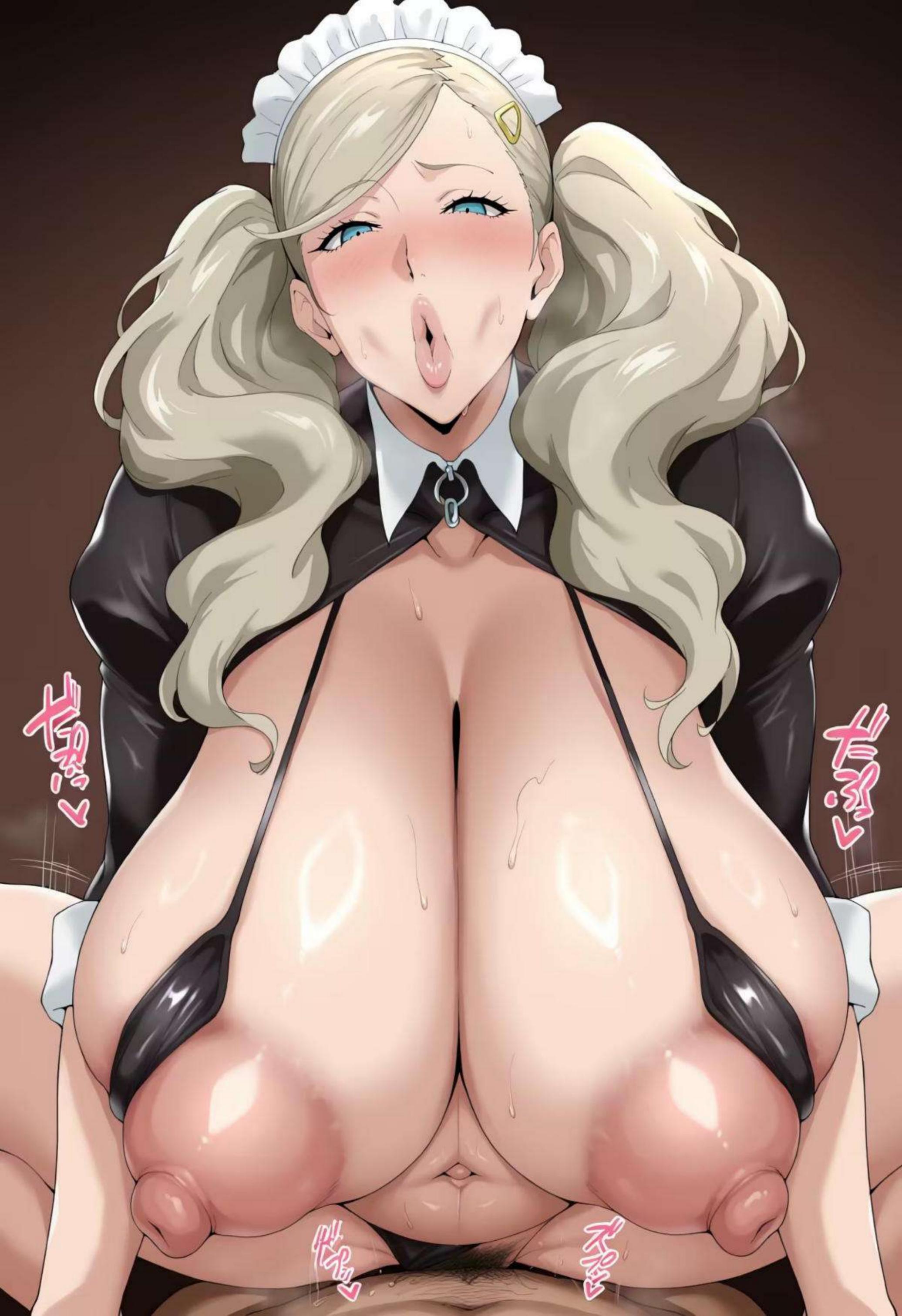
アハハ

アハハ

アハハ



Yoshinori



アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ



おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい







おっぱい
おっぱい
おっぱい

おっぱい
おっぱい

おっぱい

おっぱい



アッ

アッ